



ヘンリー・ホルト 獻呈書  
歐洲十國豫算論

第一号



1580



114  
A 4510  
/



目錄

- 第一 奧太利國
- 第二 白耳義國
- 第三 丁抹國
- 第四 佛蘭西國
- 第五 日耳曼國
- 第六 荷蘭國
- 第七 伊太利國
- 第八 葡莖牙國
- 第九 露西亞國
- 第十 瑞典國

大正十一年四月  
環侯爵館寄贈

第一 墾太利國ノ豫算

墾太利國ノ大蔵卿ハ其翌年ノ豫算書ヲライスラス即チ<sup>カ</sup>力門ノ上下兩院ニ差出スモノトス但シ其豫算書ニハ歳出入<sup>明細</sup>簿ヲ添付シテ之レヲ差出スナリ

大蔵卿ヨリ豫算書ヲ差出セシ時上下兩院ニ於テ<sup>ハ</sup>兩院ノ諸議員ナル三百六十名中ヨリ三十六名ヲ選抜シ之レヲ會計委員ニ任シ豫算書ノ取調方ヲ命スルモノトス之レニ依テ此會計委員ハ預ラ<sup>ク</sup>其歳出費ヲ別ツテ數項ト為レ以テ諸官廳ノ定額費ヲ數種ニ分類ス

右三十六名ノ會計委員中各官廳ノ定額費數項ヲ調査セシ為メ特ニ命任セラレシ委員若干アリ以テ反覆之レヲ點檢調査スルモノトス

會計委員悉ク豫算ノ事ニ付キ各其見込ヲ吐露シ決テ衆議ニ取  
 リ以テ其豫算書ヲ上下兩院ニ差出スモノトス  
 此際上下兩院ニ於テハ此會計委員ノ意見ヲ承諾スルトセザル  
 トハ其権内ニアリトス然リト雖モ通例之レヲ承諾スルモノナ  
 リ  
 奧太利國ニ於テハ彼英國巴力門ニ於ケルガ如ク上下兩院ノ全  
 議員ヲ分離シテ之レヲ委員トナス丁之レナシ然リト雖モ會計  
 委員集會ノ時ニ於テハ上下兩院ノ總議員之レヲ傍聴スルヲ  
 得ルモノナリ  
 此會計委員ノ決議スル所ノモノハ政府之レヲ改正スルヲ得  
 ルモノナリ然リト雖モ各卿會計委員ニ對シ其差出セシ管廳ノ  
 豫算書中申出シノ件々ニ付テ討論辨解スルヲ得ルモノトス  
 國債管理ノ為メニ兼テ上下兩院ノ議員中ヨリ選拔シ引續キ設

ケ置ク所ノ一局アリ此局ハ上下兩院トモ閉院ノ間凡ソ歳出費  
 ノ事ニ関シ諸官廳ヨリ申出ス所ノモノト其管理方ホトヲ細心  
 以テ監視スルモノトス  
 毎年政府ハ前年間ニ遣拂フタル金額ノ管理向及ヒ其使用方ホ  
 ヲ詳記シタル明細ノ決算簿ヲ上下兩院ニ差出スモノトス  
 但シ此決算簿ヲ點檢調査スルニハ既ニ前文ニ開陳ヤル所ノ豫  
 算書調査ノ如ク精々念ヲ入レ調査スルモノトス  
 奧太利國巴力門ノ一員バロン、マックス、フオン、キウベック氏ハ右ニ  
 述フルカ如キ巴力門ノ制法ヲ設ケテ政府ノ歳出費ヲ抑制シ且  
 ツ奧太利帝國ノ經濟上ト理財工ノ事務ヲ制定シ以テ大ニ好  
 結果ヲ生セリ

第二 白耳義國ノ豫算

白耳義國ノ會計年度ハ之レヲ一月ニ始メ十二月三十一日ニ終ルモノトス

白耳義國政府ハ會計年度ノ始メニ先立チ少ナクトモ十ヶ月以前ニ其豫算書ヲ民撰議院ニ差出サバルベクラス試ニ例ヲ引テ之レヲ証セバ則チ千八百七十七年(即チ明治十年)ノ豫算書ハ之レヲ千八百七十六年(即チ明治九年)ノ三月一日以前ニ既ニ民撰議院ニ差出セリ

畢竟斯ノ如ク早ク豫算書ヲ議院ニ差出ス所以ノモノハ豫算書中政府ヨリ申出シノ件々ニ付キ議院ヲシテ査問辨論ヤレマンカ為メ充分ノ時日ヲ与フルカ為メニアリ

日耳義國ノ一般豫算書ハ一官廳毎トニ更ニ之レヲ分別シテ數部トナスモノトス

各卿其管廳ノ豫算書ヲ製シ大藏卿頒ラク之レヲ調理整頓シテ以テ民撰議院ニ差出スモノトス  
之レヨリ前キ千八百四十八年二月ニ於テ國王ヨリ一篇ノ布告ヲ發シテ白耳義國豫算組立ノ法式ヲ制定セリ請フ之レ、左ニ述ヘン

凡ソ歳入ノ金額ハ之レヲ豫算書中ニ詳記シ尚ホ之レニ分類シテ豫算書ノ検査ニ便ナラシムルヲ要ス  
又政府ノ、バルソソネル(即チ官吏ノ給料其外此類ノモノヲ云フ)ニ関スル費用ハ之レヲ「マッテリアール」(日用諸雜費ノ類ニシテ凡ソ物ニ関スルモノヲ云フ)ニ関スル費用ト區別シ置クモノトス  
是ヲ以テ政府ハ仮令其官吏ノ給料ヲ増加セント欲スルモ兼テ「マッテリアール」用ノ為メニ倫入置タル金貨ヲ使用シテ給料ヲ増加スルヲ得サルモノトス

毎年民撰議院集會ノ初メニ臨ミ議院ヲ分ツテ六局ト為レ一局  
毎ニ諸種ノ豫算書ヲ點檢シ以テ一名ノ報告人ヲ命スルモノト  
ス  
此等諸局ノ報告人相集合シ以テ一個ノ本局ヲ組ミ成スモノト  
ス而シテ其本局議員中一名ヲ選任シテ議院ニ差出ス為メ報告  
書ヲ作クヲシ此報告書ハ宜ク之レヲ出版シテ議院ノ總員ニ配  
付ス但シ右ハ議院ニ於テ總員ノ衆議アル前ニ各員ヲシテ須ラ  
ク此豫算報告ヲ暗敷セシメン為メ余程前以テ記付スモノト  
ス  
議院ニ於テ衆議ノ節ハ先ツ豫算書ノ全局ニ付テ論議ヲ入クニ  
然ル後各條款ヲ逐次點檢調査スルモノトス  
議院ニ於テ衆議ヲ盡クシ可否ヲ討論シタル上豫算書ヲ上院ニ  
差送ルモノトス上院ニ於テハ則テ之レヲ受理シ前以テ豫算調

査ノ為メニ命シ置タル委員ニ付シ先ツ之レヲ點檢辨論セシム  
ルモノトス  
此委員ハ其議員中ヨリ一名ヲ命シテ報告書ヲ作ルヲニ從事セ  
シムルモノトス此等ノ手續ヲ經タル後上院ニ於テハ恰前以  
テ民撰議院ニテ施行セシ手續ノ通り豫算書ヲ取り扱フモノト  
ス  
前文既ニ墾太利國ノ豫算ノ部ニ付テ論述セシ如ク白耳義國ニ  
於テモ歲出費ヲ別ツテ數項ト為シ以テ諸官廳ノ定額費ヲ數種  
ニ分類ス  
斯ノ如ク歲出費ヲ分別シテ之レヲ議院ノ諸局ニ送付シ豫算書  
ヲ議院ニ差出ス前豫メ諸局ノ點檢ヲ經ルモノトス  
議院ノ各局ニ於テハ豫算ニ付改正ヲ申出スノ權アリ或ハ又諸  
官廳ヨリ何等ノ事ヲ豫算書ニ記載シ出ストモ之レヲ拒ムノ權

アリトス

議院ノ本局ニ於テハ須ラク此等ノ諸事ヲ深思熟考シ時宜ニ依  
レハ其事由ヲ上申セシ各官廳ノ卿ト協議シ然ル後其上申ノ主  
旨ヲ議院ニ申立ルカ若クハ申立テザルカラ決定スルモノトス  
議院ニ於テハ何等ノ上申タリトモ衆議ノ上之レヲ受理スルカ  
若クハ受理セサルカラ議決スルモノトス

均シク又上院ニ於テモ下院ヨリ何等ノ上申書ヲ差出スルアル  
モ之レヲ改正シ若クハ又之レヲ拒ムノ権アリ然レハ上院  
ニ於テハ苟モ新規ノ歳出若クハ新規ノ歳入ノ事ニ付テハ意見  
ヲ申出スルヲ得ス彈テ此等ノ事ニ付意見ヲ申述フルハ鳩リ下  
院ノ權内ニアリトス

抑モ議院ノ各局相互ニ獨立ノモノタルハ巴力門ノ法制ニ  
依テ斯ク定メタルモノナリ

諸官廳ノ長官ハ其管廳ノ豫算書ノ事ニ関シ諸局ニ答辨ヲ為ス  
トテ拒ムトモ之レアルベシト雖モ下院ト上院トニハ之レヲ答  
辨セサルベカラス

議院ノ諸局ニ於テ議決スル所ノモノハ當ニ一時ノ事ニ付テ政  
府ハ之レニ抗スルノ権アリ之レニ依テ終ニ上下兩院ニ於テ  
此等ノ事ヲ議決スルモノトス

白耳義國ノ法律ト議院ノ諸成規トニ依テ議院ノ諸局ニ豫算書  
ヲ差出スベキト定マレリ

議院ニ於テ特ニ命シ置ク委員ニ付テ豫算書ヲ點檢セシムル  
ニハ實ニ緊要ノ事件ニ涉ル時而已ニ限ルモノニシテ甚タ稀レ  
ナリトス

之レヨリ前千八百四十六年十月發行ノ法律ニ因テ一個ノ計筭  
局ヲ創立セリ此計筭局ノ職掌ハ凡ソ公務ニ係ル諸計筭ヲ檢査

レ且ツ之レカ結算ヲ為スニアリ

此計算局ニ於テハ兼テ上下兩院ニ於テ制定セシ豫算金額ヨリ  
歳出費ノ超越ヲキヤ否ヤヲ點檢シ且ツ一項ノ費用ヲ轉シテ他  
項ニ遷スモノナキヤ否ヤヲ調査ス此等調査ニ付テハ其レ々ハ點  
會ヲ遂ケ渾テ要用トスル所ノ答辨ヲ請求スルヲ得ルモノナ  
リ  
各上院ノ議員并ニ各下院ノ議員ハ此計算局ノ諸帳簿ヲ點檢調  
査スルノ権ヲ有スルモノナリ此計算局ノ官吏ハ局長一名副局  
長六名書記官三名ニシテ此等ハ皆奉職年限ヲ六ケ年ト定メ下  
院ヨリ命スルモノナリ  
毎年此計算局ニ於テハ其處務ノ手續ヲ簿冊ニ詳記シ之レヲ上  
下兩院ニ差出スモノトス但シ此簿冊ハ宜ク之レヲ出版シ以テ  
配付スルモノトス

仮令ヒ志錢ノ仕拂ヒタリトモ此計算局ノ許可ナケレハ出納句  
ヨリ之レヲ拂渡スヲ得サルモノトス

豫算書制定ノ上議院諸局ニ於テ之レヲ點檢調査セシテ毎年  
議院集會ノ始メニ特ニ選任シタル委員ニ付シテ之レヲ檢査ス  
ルモノトス

顧フニ前文概論スル所ノ白耳義國理財管理ノ綱領ヨリモ一層完  
全ノ制法ヲ得ルハ蓋シ難カラシ

假令ヒ白耳義國ノ理財ノ管理斯ノ如ク夫レ完キヲ得ルモ尚ホ  
且ツ歳出費ハ増加ノ勢ヒラ免レス蓋シ歳出費増加ノ度ハ其國  
ノ賞賚増殖ノ割合ト相對スルト雖モ現ニ人口ノ増加ヨリ余程  
多キモノトス今試ニ例ヲ引テ之レヲ証セン

千八百三十五年	人口	三百八十七萬六千人
全年	歳出費	八千七百十萬四千五百フランク



千八百七十五年

人口

五百三十五萬六千人

全年

歳出費

貳億五千六百萬フランク

是ニ依テ之レヲ觀レハ千八百三十五年ニ於テハ志人ニ付歳出費貳拾貳「フランク」百分ノ三十五ニシテ千八百七十五年ニ於テ

ハ志人ニ付歳出費四拾八「フランク」ノ割合ナリ

實ニ白耳義國ノ豫算ノ法其宜シキヲ得歳出費ノ管理ハ頗フル完全ニシテ些少ノ費用ニ至ル迄逐一之レヲ管理シ至ラサル所ナレト云フベシ

白耳義國ノ全國ノ計算及ヒ其收入ト支出トニ関スル諸法令ト諸規則トハ實ニ白耳義國ノ國威ヲ輝スニ足ルモノニシテ理財良法ノ模範タリ

